

エクイニクス 導入事例
SBI損害保険株式会社

Platform Equinix®の活用で クラウド接続コストを半減 柔軟なマルチクラウド活用体制を整備

ダイレクト型損害保険の大手であるSBI損害保険株式会社(以下、SBI損保)。マルチクラウド活用を意欲的に進める中で、接続コストの適正化や柔軟性などを求めた同社は、兼松エレクトロニクス株式会社(以下、KEL)の勧めによりPlatform Equinix®を採用。接続コストの半減、各パブリッククラウドの柔軟な使い分け、セキュリティや安定性の向上を実現すると同時に、マネージドサービスの導入でネットワーク機器の運用管理負荷を軽減するなど、さまざまな効果を得ている。

課題

- ・パブリッククラウドへの接続回線コストの削減
- ・目的や特色に応じたパブリッククラウドの使い分け
- ・ネットワーク機器の運用管理負荷の軽減

解決

- ・Equinix Cloud Exchange Fabricでクラウド接続を一元化し、コストを半減
- ・クラウドへの柔軟かつセキュアな接続でマルチクラウドの有効活用が可能に
- ・知識レベルの高いエンジニアによる、導入支援
- ・運用管理をアウトソースし、コア業務に集中

クラウドへの接続コストが増大 柔軟性向上や運用負荷軽減も課題

SBIグループのダイレクト型損害保険(ネット損保)会社であるSBI損保。自動車保険、がん保険、火災保険の合計契約件数が100万件を超える同社では、ダイレクト型ゆえ、顧客とのやり取りの95%がインターネット上で完結するなど、ビジネスにおけるITシステムの担う役割が非常に大きい。

同社 常務取締役 執行役員 ITソリューション部長 兼 経営企画部長 松尾 茂氏は、「保険事業ではお客様の大切な情報を長期に渡ってお預かりするため、ITシステムでは低遅延よりもセキュリティと安定性に重きを置いています。また、当社のITシステムは2008年1月にサービス開始と比較的新しく、レガシーに縛られることなく、最新技術をタイムリーに活用などの柔軟性が強みです」と話す。

同社はこれまでオンプレミスとプライベートクラウドの併用に軸足を置いていたが、2019年頃からパブリッククラウドの積極活用へ舵を切った。まずはアマゾン ウェブ サービス(AWS)から始め、近い将来のマルチクラウド化を予定している。そこで浮上した課題が接続コストである。「当初よりAWSだけでも本番用、開発用と複数利用しています。それぞれ接続回線を個別に引く方式だと多くの費用を

要し、ましてやマルチクラウド化するとコストが跳ね上がります。また、導入までの期間もある程度かかることが避けられません」(松尾氏)

それぞれ接続する方式はコストやかかる納期に加え、柔軟性などにも悪影響を及ぼす。同社 ITソリューション部 インフラオペレーション課 課長 竹野 圭輔氏は、「ゆくゆくは基幹システムのクラウド化まで考えています。セキュリティと安定性、柔軟性を確保しつつ、各パブリッククラウドの使い分け、ハイブリッドクラウド導入などを適切に実施するには、最適な接続環境の整備が大前提でした」と語る。

さらにネットワーク機器の運用管理でも懸念を抱えていた。「社内の人的リソースに限られるなか、ネットワーク機器の運用管理負荷は極力減らす必要に迫られていました」と竹野氏は振り返る。

エクイニクスのサービスを採用 複数のクラウドに直接接続

このような課題への解決策を探していた際、KELより導入を勧められたのがエクイニクスのマルチクラウド対応の相互接続サービス「Equinix Cloud Exchange Fabric®」だ。松尾氏は、「複数のパブリッククラウドに直接接続できるのはエクイニクス



SBI損害保険株式会社

SBI損保は、「新しい時代に、新しい保険を」という企業理念のもと、最先端の保険商品と最高水準のお客様サービスを提供。テクノロジーの力で新たな価値を創造し、SBIグループ各社のシナジーで更なる飛躍に向けチャレンジし続けている。

本社所在地
東京都港区六本木1丁目6番1号
泉ガーデンタワー
<https://www.sbisnpo.co.jp>



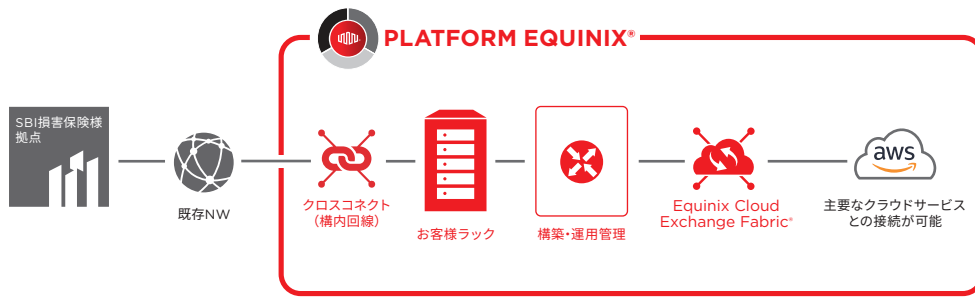
兼松エレクトロニクス株式会社

兼松エレクトロニクス(KEL)グループは、企業理念に「お客様第一主義」・「新しい価値の創造」を掲げ、経営ビジョンである「信頼と価値を創造するIT総合サービス会社」を目指して事業を展開。特定のメーカーにとらわれないマルチベンダーとして、幅広いIT製品の中から、常にお客様にとって最適なITソリューションを提案している。

本社所在地
東京都中央区京橋2-13-10
<http://www.kel.co.jp>



EQUINIX



だけでした。個々に回線を引く必要がなく、その上、データセンター内の当社ITシステムから各パブリッククラウドまで、インターネットを一切経由しないで接続できるのが大きな魅力でした」と選定理由を語る。

竹野氏も「将来のマルチクラウドやハイブリッドクラウドの導入においても、柔軟性が高いEquinix Cloud Exchange Fabricは最適でした」と続ける。同時に、ハードウェアのレンタル、システム運用監視などのサービスを提供するエクイニクスの「マネージドサービス」を採用。ネットワーク機器の運用管理をアウトソースすることにした。

KELは2020年4月にエクイニクスと戦略的パートナーシップを結んでおり、今回も密な連携のもとにソリューションを提供している。KEL 第一ソリューション営業本部 第一営業部 第三課 主事補 瀬下 貴之氏は、「Equinix Cloud Exchange Fabric をさらに活用し、オンプレミスで運用しているシステム移行、クラウドとオンプレミスでデータをシームレスに移動可能とする技術のNPS (NetApp Private Storage) 導入なども想定した次世代基盤として提案させていただきました」と述べる。

接続コスト半減と柔軟性向上 運用管理負荷軽減も実現

2020年2月にEquinix Cloud Exchange Fabricの採用を決定し、4月に開通。スイッチは当初予定していた1Gbpsから10Gbpsの製品に変更し、最初からマルチクラウドを意識した構成とした。契約者向けのスマートフォン用サービスの一部を皮切りに、クラウド化を順次図っている。

SBI損保はEquinix Cloud Exchange Fabricの導入によって、従前の課題解決を果たしている。

直近の課題であった接続コストについては、接続の一元化によって、個別に回線を引く必要がなくなったため、「AWSへの接続だけでも約半分になる見込みです。これから接続先が増えれば、より顕著なコスト削減効果が見込めます」(松尾氏)

マルチクラウド化においても、優れた柔軟性によって、「当社のニーズと各パブリッククラウドの特色に応じて適材適所で使い分けられます。個別に回線を引かなくてもよく、必要になればすぐに接続することができ、納期の削減につながります。その上、インターネットを一切経由しなくなり、セキュリティと安定性をより確実に担保できるようになりました」と竹野氏は話す。

運用管理負荷の課題も、KELが導入を提案したマネージドサービスによって解決している。「自社でのスイッチの運用管理が不要になりました。その分、当社の事業展開にリンクした戦略的なシステムの企画立案など、コア業務により集中可能となりました」(竹野氏)

松尾氏は今回の導入を総括し、「エクイニクスのおかげで、当社に世界標準のクラウド接続環境、およびマルチクラウドのフル活用体制を整備できました」と評価する。

SBI損保は今後もエクイニクスとKELの支援を受けつつ、クラウドを事業に活かしていく。「これからも中長期の契約から成り立つ保険事業の更なる成長を安定して支えるITインフラであり続けなければなりません。また、世界の大きなITテクノロジーの流れも積極的に導入したいと考えています。事業継続性については、現在はエクイニクスの東京のデータセンターのみを利用していますが、大阪センターも加えたDRも構想しています」(松尾氏)

“エクイニクスのおかげで、当社に世界標準のクラウド接続環境、およびマルチクラウドのフル活用体制を整備できました”

常務取締役 執行役員
ITソリューション部長
兼 経営企画部長 松尾 茂氏



(写真右から)
SBI損害保険株式会社
ITソリューション部 インフラオペレーション課
課長 竹野 圭輔氏
常務取締役 執行役員
ITソリューション部長 兼 経営企画部長
松尾 茂氏
兼松エレクトロニクス株式会社
第一ソリューション営業本部 第一営業部 第三課
主事補 瀬下 貴之氏

2020年6月取材
※記載の情報は、取材日時点のものです。

エクイニクス

Equinix, Inc. (Nasdaq: EQIX) は世界でも相互接続性の高いデータセンターであり、世界中の主要企業とそのお客様、従業員、パートナーとの接続を提供しています。世界5大陸で50を超える都市をつなぐデジタルビジネスのためのグローバルプラットフォームとして、企業や組織があらゆる場所で、あらゆる人やモノとつながり、デジタル化された未来を実現していくことを支援しています。

本社所在地
東京都中央区日本橋2-7-1
東京日本橋タワー 35階

Equinix.co.jp



クラウドファーストの環境に適したグローバルインターコネクション(相互接続)プラットフォーム

エクイニクスで、お客様は自社のデジタルインフラやサービスをグローバルに展開することが可能になります。たとえば、お客様にとって最も重要なクラウドサービスやネットワークへ、ダイレクトかつプライベートな相互接続をすることができます。さらに、エッジサービスをオンデマンドで有効化することで、ビジネスの成否に応じたスケールアップ/ダウンの調整が行えます。Platform Equinix®の活用で、デジタル化された未来に必要な「あらゆる場所へのアクセス」、「あらゆる人とのインターコネクション(相互接続)」、「あらゆるモノとの統合」を実現できます。

Equinix.co.jp

© 2020 Equinix, Inc.

SBI Insurance Customer Success Story_JP | v0831 | Q419

Questions? Equinix.co.jp/Contact-us/sales/